

赤穂未来創造委員会 第1回福祉・環境・安心部会 会議録

1 日 時 平成30年9月27日(木) 14:00～16:00

2 場 所 赤穂市役所 6階 第2委員会室

3 出席者

(1) 委員

中村 剛部会長、矢野善章、島田裕弘、大田秀美、岩崎由美子、小寺康雄、福本俊弘、
岩谷直樹、井上昭彦、勝原建夫、寺内まみ

(欠席委員：堀 理江)

(2) 事務局

磯家市長公室長、山内企画広報課長、澁谷総合計画・戦略推進担当係長、桃井主査

4 次第

(1) 開会

(2) 協議事項

委員からの提案意見について

(3) その他

(4) 閉会

5 議事概要

(1) 開会

事務局

ただいまから、第1回福祉・環境・安心部会を開催いたします。

委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。
す。

それでは、本日の議事進行につきましては、中村部会長にお願いしたいと
思いますので、よろしく申し上げます。

部会長

部会長を務めさせていただきます、関西福祉大学の金沢と申します。円滑
な議事進行に、皆様のご協力をお願いいたします。

はじめに、委員の出席状況について、事務局から報告をお願いします。

事務局

本日、委員12名中、11名の出席をいただいております、1名の委員さんか
ら欠席のご連絡をいただいております。以上です。

部会長

事務局報告のとおり、半数以上の委員の御出席をいただいておりますの
で、本日の会議は成立しております。

会議は、お手元の会議次第にしたがいまして進めてまいりますので、よろ

しくお願いします。

(2) 協議事項

委員からの提案意見について

部会長 それでは、これから議事に入ります。

 次第2の、協議事項に入らせていただきます。

 前回の委員会で、事務局から説明いただいた赤穂市の現状と将来の人口動向を踏まえ、委員の皆さんから今後のまちづくりの御提案をいただきたいという依頼がございました。その結果、皆さんから提出いただいた意見につきましては、一覧表にして、事前に事務局から配布しております。

 まず、それらの資料につきまして、事務局から説明をお願いします。

事務局 前回の全体会におきまして、委員の皆さまに、今後の赤穂市が目指していくまちづくりや施策等について、ご意見、ご提案をお願いしましたところ、全部で48件のご意見等をいただきました。ありがとうございます。

 事前にお配りさせていただいております資料1をご覧ください。委員の皆さまからいただきました提案事項を、事務局におきましてある程度のまとまった項目ごとに整理をさせていただきました。また、それぞれの部会ごとに関係するテーマについて整理をさせていただきました。

 ご提案をいただく際には、人口減少社会という大きな背景を見据えた、またそれらを前提としたご意見をいただければということでご説明させていただきましたが、そうした背景を踏まえたご意見をいただけたものと思っております。

 本日の福祉・環境・安心部会では、項目として、便宜的に対策といった名称でまとめさせていただきました、福祉対策、子育て対策、高齢者対策、環境対策そして安全安心対策、それから両部会に共通の事項につきまして委員の皆さまからご意見をお伺いできればと思っております。

 また、資料2の方につきましては、番号ごとにご提案の概要をまとめさせていただいております。資料1でもご提案の項目に番号をふって整理しておりますが、その番号に対比するかたちで資料2にご提案の概要をまとめさせていただいております。

 これらを参考にご意見をいただければと思っております。

 どうぞよろしくお願いします。

部会長 では審議に入りますが、皆さまからご提出頂いた意見について協議を進めていきたいと思っております。

平成32年度までの赤穂市総合計画が手元にあります。この部会は、次の期間の総合計画の骨子となるような考え方や、あるいは核になる施策をある程度絞って提言することが求められています。ゴールを見据えての協議になりますが、進め方としては先ほど事務局の方から資料1で委員の皆さまから提出して頂いた意見を2つの領域に分けて頂きましたので、その領域を例えば最初であれば福祉対策についてご意見を申し上げますということで分野ごとにご意見を聴き、協議をしていきたいと考えています。

ただ、協議をしようと言ってもいろいろ出てきているので、何をしなければならぬかは先ほど言いましたように、ある程度取捨選択と言いましょか、いろいろ出ている中で次の総合計画では、どんなところに、どんな施策を入れなければならないかと優先順位のようなものをある程度つけなければなりません。優先順位と申しましたが、基本のものさしが無ければ何を優先するのかが判断できませんので、そのものさしの一つが先ほど事務局から話があったように、赤穂市人口減少問題が大きな課題としてあります。赤穂市に限ったことではありませんが、赤穂市も人口減少となっているので、議論をするときの一つの尺度として人口減少について考えたときに、「これは不可欠である」とか、「大事である」という観点が一つの観点としてあると思います。もう一つは、公共の事業であり営利事業ではありませんので、市という行政が行うこととして何をすべきか、行政としてすべきことは何なのか、行政計画の骨子になるものを決めなければなりません。言い換えれば、公のもの、公共のものということで、赤穂に住む人にとって皆に必要なものというのが一つの観点としてあると思います。公共というものを考えたときに、皆にとってこれは必要、しかし営利企業などそのようなものでは上手く充足できない、営利企業や家庭とかでは上手く充足できないものは当然公がしなければならない、この観点が一つ。もう一つは、あまり言及されることはありませんが、公というのは決して排除しないというところがあります。公共性という言葉の意味で開かれているという意味がありますが、どうしても皆という言い方の中で皆の中に入れていない人たちというようなところに、公として公共性として目を向けるか、要はすべての人に等しく住民としての暮らしという観点も一つの考え方としてはあるので、人口減少という観点、公共性という観点を一つの尺度としていろいろとご意見を頂きたいと思えます。

今、私は二つの基準を言いました。人口減少という観点と公共性という観点を言いました。しかし、議論をする中で、他にこれからの赤穂を考えるのであれば、キーワードとなるような考え方、これからの赤穂を考えるのであればもっと住民主体であるとか、今後の赤穂を考える上でキーワードとなる

ような考え方のようなものを議論の中で抽出できればと思っておりますので、忌憚のないご意見を頂ければと思います。

では、ご用意いただいた最初のカテゴリーです。資料1に沿って、詳細に関しては資料2を適時参照しながら協議を進めて参りたいと思います。ご提案頂いた委員の方がいらっしゃいましたら必要に応じてご意見を頂戴できればと思います。

この部会は、福祉・環境・安心部会なので最初に福祉対策についてご意見をお願いしたいと思います。1番の地域福祉の向上、誰もが暮らしやすい社会です。比較的少人数なのでざっくばらんにどうぞ。最初に小難しいことを言ったので言いにくいかも知れませんが。ワンストップという観点ですかね。ご提案頂いた方はいらっしゃいますか。

委員
部会長
委員

はい。

では、少しご説明をして頂けますか。

記載している内容の通りですが、困窮者支援、子育てにおいて、福祉という一つのカテゴリーでもありますが、やはり行政の中で窓口がバラバラです。皆さんの中で共有はされていると思いますが、支援ということになるとバラバラで、たとえば支援の必要なご家庭があったとして、そこに一体何が一番必要なかという部分は、情報の共有等で精査しながら、どのような支援が必要かということができるのではないかと思います。今の状況は分かりませんが、他市においては窓口を一つにして、そこからここかなという窓口があると思います。しかし、赤穂市には総合的な窓口があるのかないのかは分かりませんが、そのような仕組み作りは大事だと思います。やはり生活困窮者や子育てにおいても、母子家庭や父子家庭が増えてきて、困窮者が思っているよりもいるのではないかと思います。また、窓口もどこに行っても良いのかが分かりません。子育てでも生活でも困っていて支援でも困っていてどこに行ったら良いのか、どういった支援を受けられるのか分からないという点が課題だと思います。情報を知っている方は良いと思いますが、情報すら届かない方もいらっしゃるのです。そのようなところの底上げを生活の安定を図ることで人口減少にも歯止めをかけるという内容です。

部会長

ありがとうございます。福祉や子育てとか高齢者は福祉と言えば福祉ですが、今のご提案は赤穂市と大学でも連携、共同研究のようなことでこの後話をしますが、福祉とはサービスがつながっているだけではなく、むしろサービスが必要なのに繋がっていない、地域の中に本当に必要だけれども繋がっていない多くの方がどこに相談に行けば良いのかが分かりません。ワンストップというか、とりあえず分かりやすく、窓口はここというところがあれば、それをきっかけとして潜在化している福祉のサービスが必要だけれどもま

だ結びついていない人を、どうにか結びつけられるような施策を設けたらどうかというご提案でした。生活困窮者と具体的に説明頂きましたが、恐らく障がいに関しても、一人親家庭にしても、高齢者にしてもすべてに共通することなので、そのような観点を取り入れてみてはどうかというご提案ですね。

委員 はい。

部会長 ご意見いかがですか。その通りでいうことであれば、その通りで、当面その通りが多く出た後、予算のこともありますので、その通りの中から取捨選択されるわけですが。今のご意見についてどうですか。

委員 ワンストップ窓口については行政の方でも前々から検討しているところもあると思います。ただ、その窓口に来てどうしても相談や内容が細かくそれぞれの専門になっていて、そのような相談があれば担当課を呼んで相談に当たっています。窓口を設けるのは良いですが、窓口だけではなく福祉でしたら福祉、教育等いろいろな関係部署との連携が必要だと思います。ただ生活困窮者支援、子育て支援に関しては、福祉教育部署との情報共有という部分では、例えば子育て支援では子ども子育て会議や生活困窮者ならそれなりの会議がありますが、はっきり機能していない部分があるのではないかと思います。提案の理由であるように、情報を知っている人と知らない人の差については、特に福祉制度は行政の方からではなく、制度を知っていたらいくらかでも使えますが、行政は広報やホームページではPRや周知をしていますが、問題があるように思います。

部会長 ありがとうございます。まず、必要性という観点と実行可能性は分けて、必要性という観点で言えば、お話にあったように支援が必要だけれどいろいろな理由でそこに結びつかない。これは福祉の根本的な問題としてあります。それに対して実現する上での課題の説明がありました。いろいろな課題はありますが、必要か否かということ言えば、窓口はあくまで一つの見えやすいことであって、窓口を設けるだけであれば上手くいきません。そのためには、どのような仕組みであるか、どのような人が必要であるかなどを合わせて考えなければならないことではありますが、必要なのは必要であるということです。

実はこのことは非常に大きな問題であって、関西福祉大学でも行政と共同研究をしているのも、その見えないというか潜在化しているニーズというか支援を必要としている人をどうしたらキャッチして行政サービスに結びつけることができるか、その仕組みを明らかにするという研究をしていきたいと思います。実際、他の自治体できているところがあるのであれば、なぜできているのか、なぜ赤穂市ではできないのかと研究レベルのこ

とも必要になりますが、提言としてする必要があるのではないのでしょうか。そうは言ってもいろいろ他のことを言えば、課題が多いのではないかという意見があれば、忌憚のないご意見、あるいは他の方法を潜在化しているニーズはあるけれど、ワンストップではなくこのようにしては良いのではないかというような他の選択肢はありませんか。

委員 事務局をお願いしたいのですが、委員さんからいろいろ提案がありましたね。提案の内容が、すでに赤穂市でしていることもいくつかあると思います。例えば、それぞれの関係所管に内容を聞いたり、実態をつかんだりしているのですか。つかんでいない場合、子育て支援や生活困窮者について教育と福祉の連携もありますよということであれば、それが機能するように言えば良いですが。委員は行政のことや現状について、すべてのことは知らないのか、あっているのかどうか、その辺の方向性もありますので。

事務局 頂いたご意見の中で、赤穂市ですで行っているものもいくつかはつかんでおります。

部会長 ただ話として、今できることは、この後出てくる内容で端的にこれはもうしているのか、あえて提言として出す必要はないと分かっているものがあれば、お教え頂いて、そうでないものは、一応ここで話をして、この部会の中で必要だと挙げたけれど、それぞれの部署に聞いてみると、すでにそれに近いことはしているということであれば、そのまとまった意見の中から削除して頂くという形で今日は進めていきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、時間の都合もありますので、福祉対策についてワンストップを一つの切り口として、潜在化しているニーズと行政サービスを結びつけるような何か仕組みを提案したらどうかということで、ここは一旦まとめたいと思います。

委員 福祉のニーズが必要だということで、支援を受けたい人がいるのは実際にあると思います。どうして支援に繋がらないのかということはあると思いますが、行政側とすると、このような支援がありますよとそれぞれの部署で対応できます。しかし、支援を必要としている人に情報が入らないということであれば、逆にそのような方に対してのPRが足りないのではないかと。

部会長 行政がですか。

委員 そちらの方がどちらかという課題ではないかと思えます。

部会長 ワンストップ窓口は一つの方法の話なので、ワンストップという方法ではなく潜在化しているニーズが行政に結びつくという目的を達成するには、ワンストップというより、それぞれの部署のPRをもっと強化すべきではないかというご意見です。合わせて、ワンストップは一つの方法ですが、各行政部署のPRという言い方が適切か分かりませんが、そのようなニーズを必要

としている人に周知できるような施策を展開して頂きたいというご意見を進言すると。

委員

認知症の件で、地域包括支援推進会議に出席した際に、PRが足りないのではないかという意見がありました。どこでも一緒です。9月号の広報あこうに認知症について掲載されていました。別の冊子で各専門の病院が載っていて、非常にありがたいと話をしました。昨日、老人会の地域の集まりで体力測定を行ったときに、市役所からこのような冊子が出ていますよと。市役所が出してくれているので見ている人は見えています、やはり、これだけでも関心がなければならぬにも関わらず、良いものを出してくれたという答えが返って来ないです。広報はしますが、どこまで住民に入っていくことができるかが難しいと思います。私は地域に入っていくしかないのではないかと思います。市役所に電話した際に、担当者が休みなもので、後日にして欲しいと言われたことがあります。私は銀行に勤めていましたが、そのようなことはありません。しかし、市役所の人に聞くと、仕事が多岐に渡っていて、その人でなければならぬということで、極端な話ですが、それはおかしいと思います。少しでも全員がレベルアップをすれば、人員の削減にも繋がるだろうし、お客さんから電話がかかってきたときに、もう少し対応できます。行政はしていることはしていると思いますが、知らせ方や地域住民にもう少し周知するにはどうすれば良いのかということ、一人一人が地域住民にもっともっと入っていくこと、職員ももう少し広く浅く知識のある方を増やしていただくと上手くいくのではないかと思います。

部会長

ありがとうございます。テーマとなっているものは、支援が必要だが行政に結びついていないという問題です。専門で言えば、福祉の根本的な問題です。端的に福祉のサービスが結びついていないのはごく一部で、結びついていない人は、亡くなったり罪を犯したりしてしまいます。根本的な問題を提起して頂きました。方法論として、ワンストップという方法、行政の広報を強化するという方法、それだけでは十分ではないので、地域の人と関わる方法もある。これらはすべて方法論の話になります。ここで協議すべきことは、方法論として、どれが望ましいかではなく、そのような多様な方法はあるけれど、ニーズに結びついていない人を赤穂はきちんと把握できるような仕組みを大学とかを活用し、そのような仕組み作りを進めているということ、次期計画に取り入れたら良いのではないかという形でまとめさせていただきます。ありがとうございます。

続きまして、子育て対策です。先ほど私が言った人口減少問題に対応している問題です。これに関してご意見をお願いします。いろいろあると思います。おそらく次期計画の一つの柱になると思います。柱になるけれど、その

中でもここはきちんと次の計画でしっかりクリアできるようにして欲しいというものはどこになるでしょうか。3番と4番は産婦人科医の問題です。中央病院は産科がありますが、市民病院は無いですか。一つの市の中で2つあると、大きいと私は思います。アピールできるのではないかと思うのですが。いかがでしょうか。

委員 教育・文化・経済部会と重なりますが、赤穂市は20代30代の人口が少ない状況です。出産年齢と重なると思うのですが、その方を安定雇用できるような職場を増やし、20代30代の人口を増やさなければ子どもの数が増えないのではないかと思います。これもすべて大事で、もっともな意見ですが、安定雇用で働くことができることは大事だと思います。

部会長 事務局にお伺いします。雇用創出のようなカテゴリーは、教育・文化・経済部会になりますか。

事務局 はい。

部会長 大学でも福祉と雇用は表裏一体だと説明をしますが、まったくその通りです。しかし、部会として雇用創出は、教育・文化・経済部会のようなので、すみません。

他はいかがですか。概要で見ると、2、3、4です。

委員 先ほど産科の話がありましたが、上郡町や備前市の方でも赤穂でお産ができる安心感がありましたが、今は中央病院だけなので一番大事な問題ではないかと思います。親戚の若い人が小さな子どもを育てていますが、もう一人子どもを産もうか考えると困ると言っていました。乳児センターの先生もいなくなってとても不安がっていました。ですので、環境を整えることは大きいと思います。

部会長 そういう意味では、まず産んで育てて、ある程度働く。働くに伴って子どもを預けるところもあることが産婦人科という輪切りではなく、もっと長いスパンで、ここに記載しているように産んで育てやすいということを総合的に組み立てていく施策が必要ではないかと思います。2番から5番の提案をうまく他の成功事例や自治体のものを参考にして実現して欲しいということでしょうか。

ちなみに参考までに赤穂市民病院に産婦人科が無くなったのですか。

委員 先生がいなくなったので、産科は休んでいます。

部会長 医師がいないのですか。

委員 近隣の備前市、上郡町、相生市、たつの市の中で産婦人科医がいるのは、赤穂市の中央病院だけです。

産科が無い自治体は全国的にもあります。おそらく産婦人科医を希望する医師が少ないからだと思います。実際に、産婦人科医になっても24時間対

応しなければならない、また場合によっては訴えられ訴訟の問題になるので、産婦人科医を希望するドクターが少ないのが現状です。

神戸大学から市民病院に医師を派遣して頂いていましたが、神戸大学の医局の中に属する産婦人科医がほとんどいないことが現実です。今までいらった先生も神戸大学の先生ですが、一人は医局を離れて他の病院に行き、もう一人は中央病院に行かれたようです。大学からすると、赤穂市は知らないぞというような状況に置かれています。市民のことを考えれば、他の大学にも行かなければなりません、神戸大学から「良いよ」という返事を頂かない限り、他の大学から支援して頂くと神戸大学から今後支援をしてもらえなくなるかも知れませんが、なかなか医師を確保することは現実として難しいです。

部会長

医師が必要なことは分かりますが、行政計画をするにはある程度見通しが難しいことがあり、改善して実現することが計画です。ただ、いろいろ検討してもそれでも難しいこともあるので、その辺の見極めがあるということですね。

産婦人科医が訴えられたりするのでということは赤穂だけでなく、全国的な話です。一方で、産婦人科に関して医師を希望するが、今お話しにあったような現実がある。その現実を踏まえつつ、それを補う形での何か次の計画のときにできないでしょうか。今のお話を聞くと、そこを突破することは非常に容易ではないと思います。

委員

現状は厳しいかも知れませんが、委員さんからの提案の3番から5番すべて市民の要望なので、これらは外すことはできないと思います。後の部分は、今後の方策の部分なので、産科を増やすことは市民の願いですので、安心して子どもを産むことができるまち、子育てのまちあこうを要望するのであれば、ここが一番の元となるところです。今までは赤穂市の市民病院は、近隣から受け入れて、赤穂市の良さだったのですが、それが無いということは、子育てのまち赤穂を要望できないと思いますので、これらは譲れません。

委員

私も、難しさはありますが、次の10年を考える上では赤穂市として赤穂市民病院で子どもを産むことができるように環境を整えることは、大切なことだと思います。私も市民病院で子どもを三人産み、大変お世話になり良い病院だと思いました。他の市と差別化する一つの要因だと思われ、視点は変わりますが、産科が無くなったこともあり今年も赤字が出たようなので、市の財政を考えても赤ちゃんを産めるようになれば良くなるのかなと思います。お金のためではなく安心のためですが、こういった効果があると思います。ぜひ、これらは残すべきだと思います。

委員

どこで診察をしてもらおうかという考えが先に立ちます。遠いところは困

ります。私の子どもの頃は里帰りも受け入れて頂いていましたので、市民病院の産婦人科も活気があったと思います。何も無いということは心配なことばかりで、産婦人科に関してはどうにかして欲しいという希望もあります。子どもたちの出産は、やはり心配です。現状を聞いて事情が分かりましたが、一般の方は内情が分からないので余計に不安です。産婦人科に関しては、何か考えて欲しいと思います。

部会長 この委員会は、考え方やためになる施策を決定し、それが実現するかは分かりませんが、それを次期計画にというような観点をまとめる会です。子育て対策で言えば、市民病院の産科をどうにかしたいという意見が出ましたので、ここは合意して頂けると思います。あとは理由です。行政の方でこれはして頂かないと、ということで今私が思いつくことは、委員の方から出た意見で差別化をするということ。赤穂市が本当に人口減少問題に対応するということは、赤穂市で一番コアな問題だと思います。産科を二つ持つことは、これに対して非常に有効ではないかという理由です。市民が安心でき、多くの人がそれを願っているという理由。他に理由はありますか。理由に対して、どのように医師を確保するかを今度の計画の中で練って実現することが計画です。理由が弱いと、医師を確保することが難しいのでは弱くなってしまいかも知れません。今言った二つでよろしいですか。

委員 子育ては、煩わしいとか、特に若い世代の立場では生活の先行きが不透明、自分の自由が無くなってしまうということもあるでしょう。大人の問題としては、例えば電車の中での子どもの声や泣き声に対して高齢の方がどなりつける等よく問題になっています。子育てというとネガティブなイメージが強いです。子育ての楽しさをもっとアピールできないでしょうか。子どもを育てることは、こんなに楽しいことで、子宝で国にとっても非常に重要な問題です。もっと子育ての楽しさをいろいろなところでアピールできれば良いと思います。

部会長 今のご意見のように、実は産科が無いと言っても、だんだんと若い人は子育てが煩わしい、子どもは一人で良い、子どもがいなくても良いと考える人たちが一定数いるわけです。以前のように子どもを持つことが当たり前と思っているわけではありません。そのような中で、子どもを持ちたいと思っている人たちに安心して産むところを用意することは貴重です。ただでさえそのようなものが無ければ、産もうと思わない人たちが一定数いるわけなので、そのところに産もうと思っても諦めようとしている人の後押しにもなります。産もうと思う人に対して、子育てをすることの楽しさを伝えていくと、市民の意見の後押しをしてもらえるのではないかという意見でした。ありがとうございます。

- 委員 産婦人科の件です。一人勤務の場合24時間産直しなければならないし、二人勤務の場合も三日に一回は産直しなければなりません。加重労働となり、労働基準法で言えば三人か四人が必要になると思います。それだけ費用が掛かることを覚悟しなければなりません。一人、二人とする勤務ではなくなってきたので、それだけ割高になっています。
- 部会長 それくらい予算を割いてでも、しなければということですね。意見の中で、今挙げたような理由があり、さらに理由を述べていく必要があると思いますが、医師に来て頂くためには、当然お金が必要になることを理解して予算化してもらえそうな計画を望むということですね。ありがとうございます。
- 委員 子育て対策については、焦点がかなりはっきりしていて、その理由をということで話がまとまっていますが、他に子育て対策について意見はありますか。
- 委員 子育て支援の活動をしています。ここに書いている若者の結婚意識を高めるについては、社会福祉協議会などたくさん活動してはいますが、個人的なことで難しいですが、活動は結構していると思います。昨年も子育てしやすいまちということでランキングの上位に入っていて、私の目から見ても子育てをするのに過分なほどの支援でもあります。過分すぎて、それはどうなのだろうと逆に思うくらいです。そこまで至れり尽くせりしなくてもと思うくらいです。赤穂市は、二人三人産んでいる人がいるので、環境的には良いと思います。ここにはありませんが、保健センターにすこやかセンターができて、地域包括ではなく子ども包括支援ができています。そこはまだ4月に立ち上がったばかりなので、恐らくきちんと施策というか、産前産後のケアということでこれまで通りの保健センターでしてきたことの継続ということがありますが、子育てでしんどいのは産前産後で、ある程度大きくなってしまえば楽しい方が多くなってきます。地域の中でコミュニケーションが取れていなければ、産後に外出がないことに気づかない等、そのようなケアも必要ではないかと思う出来事がありました。これには提案ができませんでしたが、そのような施策の組立てを入れて頂きたいと思います。
- 部会長 ありがとうございます。二点ポイントがあったと思います。一つは子育てに関する十分すぎるほどのサービスが一方ではあるかも知れない。これは行政計画全般について言えると思いますが、行政にどうにかして頂ければというものと、イギリスではゆりかごから墓場までというベヴァレッジ報告と言っていますが、ボラリズムと言ってボランティアがとても大事で、両方で福祉だと言っています。これが基本的に福祉ということです。しかし、戦後、日本は宗教的なものはないからと行政が福祉のことをしますということになって、だんだんと地域の支え力のようなものが弱くなって来ている。こ

の反省から90年代の社会福祉基礎構造改革があり今に至りますが、先ほどのお話と同じように行政がすることは肩代わりをするのではなく、きちんと行政にしてもらい、しかし自分たちの問題なので自分たちの地域に誇りを持って自分たちでしましようということが次の総合計画に一つの考え方として入れる必要があるのではないかと思います。それに関連するようなことに先ほどお話があったと思います。

もう一つは、産んだ後にうつ状態になったりすることがあるので、それはポイントとして子育て対策だけでなく福祉の対策の中で出た本当に関わりが必要で、必ずしも行政と関わりになるかどうかはともかく、関わりが必要な人がうまくキャッチできていないところで捉えることができますので、福祉対策で取りあげたところの強化で提言できるのでないかと思いました。ありがとうございます。

委員 話が戻りますが、産婦人科に男性の先生を含めて女性の先生を連れて来て頂きたいです。そのためにその先生が入れない時間は交代をしたり、あるいは先生をサポートできる方を用意したりしておいて、女性医師の方が少ないことは聞いていますが、一番厳しい産婦人科だが赤穂市なら行ってみようと思えるような方策はないかなと思います。看護師は病院託児所がありますよね。

委員 市民病院に勤務している看護師だけでなく医師も含めて利用できます。

委員 夜中の勤務のときにも対応できる方を一人で良いので確保しておくなど、女性医師の方に来てくださいというようなサポートを打ち出して、赤穂市なら行ってみようかと思えるものがあれば良いのではないかと思います。そのようなサポートができるような市民病院だったら良いなと思います。

委員 子育てしやすい環境づくりについては、赤穂市は自然と触れあうことができるし、教育の面でも良いという目玉があれば良いと思います。例えば相生市であれば給食費が無料です。これはとてもメリットが大きいとよく聞きます。給食費が無料でなくても、環境面でこのようなところがあるよというところを出せないか考えたときに、私は平成24年度に赤穂市の環境について提案させて頂きました。有年で千種川の眺めがとても良い場所があります。有年中学校の西側の河川敷がそうですが、未整備のままです。千種川の河口あたりはスポーツ広場等いろいろ利用されています。とにかく眺めが良く、春夏秋冬の花が咲き、今は彼岸花が一面に咲いています。もうすぐバッタが飛びます。春には10種類に及ぶ小鳥が来ます。川も鮎やメダカがいます。メダカに希少価値があると聞いて驚きました。河川敷にわざわざ運動場を作らなくても、一日自然の中に出かけて自然と触れ合える場を作るとしたら、先ほどお話した未整備の河川敷が一番適しているのではないかと思います。

部会長 今のお話では、何か目玉になるものが必要ではないかということですね。目玉になるものとして産婦人科を目玉にしなければならない。もう一つは、先ほどお話があったようなものですね。何が目玉になるかは、いろいろな候補はあると思います。提言として、何か人口減少問題に対応すると言ったときに次期計画で明らかに目玉としてアピールできるものを作って頂きたいです。中核になるものは、産婦人科医についてが一番大きく、今ご説明頂いたようなもの等いくつかサンプルをつけて、何か目玉になるようなものを検討して頂きたいとご提案するという事でよろしいですか。

高齢者対策について、ご意見がありましたらお願いします。

委員 これから高齢者がだいたい増えることが予想されます。住み慣れたところでお世話になりたい人が多くいますが、何人もの方が老人ホームの入所待ちをしていると言われています。これからの福祉施設は、入所待ちを無くして頂くとともに、介護をする方の育成に努めて頂きたいと思います。

部会長 施設の整備と人材の育成ですよ。正直、人材についてもとても大変な話です。関西福祉大学に勤めていますが、福祉には学生が来ません。看護には来ますが、福祉に関しては国やいろいろな法人でも外国人を活用したいというところなので、相当きちんと組立てて対応しなければ大変な話です。ただ、子育てと同じように問題としては切実です。

委員 先日、ある施設ではブラジル人を呼んだのですが、すでに半分はいなくなりました。お世話をする方が毎年、多くの方が退職する状況です。人材が少なくなっています。

部会長 これは本当に深刻な問題です。だからこそ、まさに行政ということだけでなく、社会福祉法人も含めてNPOであるとか、いろいろなところで共同して考えていかなければならない部分ではあります。これもまさに避けては通れない課題ではありますが、ご意見いかがでしょうか。

委員 8番の地域包括支援センターにおける認知症予防事業については、私が出させて頂いた意見ですが、先ほど言われたように入所待ちの方が多く、福祉に携わる仕事をする方も減ってきている状況の中では、そのような方を作らないというか、そうならないように予防をしていくという意味で要介護ではなく要支援の人を増やし、要介護を減らすことによってそのようなところをカバーできるのではないかと思います。今はデイサービス等リハビリに特化しているところが赤穂市には多く人気ですが、リハビリ系は介護度が進みません。今はサロンが社会福祉協議会でもありますが、もう少し予防の効果もありますよと、行政からも赤穂市はサロンが充実していて、要介護にならないで要支援で元気な高齢者がいるということを発信して頂ければ、移住しようと思う方がいるかも知れません。食べ物もおいしい、海も山も川もあって

良いところなので、実は結構、移住の方は多いです。移住しても歳がいつても動けなくなってしまったらどうしようと思うと思います。その部分で、地域のサロンを、高齢者だけでなく子育て中のお母さんや障がいのある方等、地域で共存できるようないろいろな形にできればなと思います。今はまだ認知症カフェは行政の薄い部分ではないかと私は思っています。その辺をもう少し拡充をして頂きたいです。移住者が増えるという意味では、人口減少にも関わることで目玉にはなるのではないかと思います。このようなことを目玉にしている県もあります。

部会長

介護保険自体が要介護状態の人に対してということと、予防の観点ですね。どうしても福祉は保険に対して事後的な対応になりがちなので、介護保険の制度を導入する際に予防の観点を取り入れました。もっと予防の観点で、福祉という貧困に陥る前の貧困対策、介護もそうですが、その両方の観点が当然必要で、次年度の計画を考えたときにこの二つをどのように提言していくかです。

今のお話で、要介護状態で本当にしんどい状態の方が一方ではいるわけです。そのような方がきちんと支援と結びつくことができ、それが施設なのか分かりませんが、安心できることが必要です。その一方で、3ページの上の方に、高齢者の能力を活かす施策を提案されています。まちづくりと言ったときに、高齢者というか子育てが終わった後、仕事を退職された後は、期間が相当あります。サロンだけでなく、まちづくりの一角を担うくらい赤穂市のお年寄りはとても元気だ、というようなことも提案できると思います。既存のものだけでなく、ここに出ているような高齢者の能力を活かすことは、予防的な観点になります。もう一方で、最初にお話しがあったように本当にしんどい状況の人にきちんと目が向いているかどうかです。最初の施策と絡んできますが、そのようなしんどい状況で、介護をするお嫁さんや娘さんが親に手をかけてしまうことがないように、そのような状態の人に気付いて、そのような方が利用できる施設を公設して対応するというのを提案することになるかと思います。他にいかがですか。

委員

7番は私が提案しました。介護が必要な高齢者が増えていますが、元気な高齢者も増えていきます。ただ、今までの経験を活かして地域社会に活かすことが必要だと思います。3ページにあるように高齢者の能力を活かす施策を推進することが少し疎かになっていると思います。一方では、老人クラブの方もいらっしゃいますが、高齢者は増えていますが、老人クラブの会員数は減少している状況です。高齢者大学も然りです。元気な高齢者を活かす施策が必要だと思います。また、サロンということで、社会福祉協議会でもしていますが、居場所作りということが必要になると思います。

部会長

専門の見地で言うと、男女でどうこう言うことは適切ではありませんが、福祉というときに自尊感情ということを中心に学生に言います。福祉サービスを利用することによって自尊感情に傷がつくので福祉はというような、誇りとかそのようなことを特に男性はこだわる傾向があります。なかなかデイサービスのようなどころには自分には行きにくいという方がいます。お高くとまっているわけではなく、お一人お一人の自尊感情は大事です。便宜的に男性、女性という表現を使わせてください。地域でも施設でも女性はおしゃべりができますが、男性はおしゃべりが苦手なので一人でいて、外に行かない。外に行かないのはあまり良くないので、デイサービスがあるよと言ってもあんなどころに行って何になるんだと、することに意味や理由がないとできない傾向にあります。それは悪いことではありません。地域の活動の中で意味や意義を見い出すことができることを作ることで、居場所だけでなく自尊感情を充足できます。能力を活かすことは自尊感情を保つことができます。高齢者の介護予防という観点で、自分の持っていた能力を活かすことができ、もっと一人一人の自尊感情が保持できる能動的な取組みをしてはどうかということ、もう一つは、本当にしんどい状況の介護の問題は人材不足や施設が少ないということではなく、介護はいつ終わるか分からなく、殺人事件になりかねないことなので、そこを行政として親身に考えてもらうということを提言したいと思います。このような提言でいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

委員

先ほどのお話はごもっともで賛成です。高齢者の能力を活かす一つの事例です。私の父は84歳で、認知症にもならず元気に離れて四国で暮らしています。小学校に昔の遊びということではけん玉やコマまわし等を年に一回教えに行き、帰省する度にこの前行ったという話をします。それが一つの活力になったり、先ほどのお話にあった自尊感情にも繋がったりしているのかなと思います。赤穂市でそのような取組みをすでにされているかも知れませんが、よく幼稚園や小さな子どもが施設に行き高齢者と触れ合うことはありますが、逆に高齢者の方が小学校に行くことも一つの手段としてあると思います。

委員

今、話が出ていましたが、39番の地域が子どもたちを育て、また自分たちを育てるについてです。学校の授業の一環で総合学習的なものですが、それは先生が自ら行っています。このような授業をしたいので、このような人はいないかと自分たちで探します。島根県の公民館の館長が、各地域でいろいろな特技を持っている人や、話ができる人をボランティアに登録して頂き、先生が考えている授業に対応できるボランティアの方を紹介しています。

部会長
委員

人材バンクのような。

そうです。老人介護や子育てにおいて公民館をコミュニティの拠点として、そこですべて一緒にしてはどうか。せつかく場所もあり、ごはんを作る場所もあります。市がしなくても地域の人に手伝って頂く等すれば、いろいろな場があると思います。お年寄りの生きがいがあると思います。老人大学にしる老人会にしる二極化していて、自分が元気で何でもしたい、世話はしたくない、世話をしてもらえなら出る、自分からは何もしないがお膳立てをしてもらえなら出るとはっきり分かれてしまっていて、入っている人はそのような方ばかりなのでどんどん高齢化しています。60歳を過ぎた人は自分の好きなことはたくさんしたいが、人の世話はしたくないので入らない。人材としてたくさんいますが、世話という感じではしたくない。世話とは、役員なので、チラシを持って行ったり、参加の確認をしたりすることです。このようなことはしたくないようです。今まで学んだ知識があるので、例えば天文学でこのようなことをしてみたいというような方が多くいらっしゃいます。それが活かされていません。もっと地域で、このような方に活躍して頂けるようなことを、公民館を主体としてできないだろうか。子育てにおいては、有年では「うねっこ」という形で二歳くらいまでの子どもをお母さんやおばあちゃんが連れてきていろいろなことをしています。幼稚園や保育園に入るまでに地域の子どもたちで顔合わせができます。公民館でしているので市街に出てくる必要がありません。地域サロンも公民館でしてみてもいいでしょうか。地域では「いやできません」では進みません。公民館で一度試してみて、そこから分かれさせたら良いのではないのでしょうか。いきいき100歳体操も有年では公民館でしています。本当はいけないらしいですが、公民館でして、そこから分かれていって人数も集まり始めたし、地域でしたくなれば試みます。もっといろいろな情報が集まったり、地域の人々の状況が分かたりします。今はお年寄りが高齢者大学をし、子どもは子どものイベントをしているので活動はバラバラですが、一緒にすれば良いだけのことで、人材の確保もできお互いに本当の意味で有意義になってきて良いのではないかと思います。したいと思っていますが、現実には難しいです。行政が応援できる場所があれば応援して頂き、まずは地域で試みようとするとうまいと思います。介護保険も大赤字になってきますし、しなければならぬことはしなければなりません、赤穂市に住めば高齢者になったときに良いとなれば、若い頃から住もう思ってもらえるかも知れません。先を見据えて、卵が先か鶏が先かということになりますが、子どもを産んで増やすのか、歳をとってから赤穂市が良かったので、子どももそこに住むのが良いのかというような考えもあって良いのではないかと思います。

部会長 子育てだけでなく、高齢者が住みやすいのが人口の増加にも繋がるし、そのための一つの方法として公民館の活用についてということですね。

最初に行政のワンストップについてお話が出ましたが、地域のワンストップではないけれど公民館を軸に地域を組立てることを考えるのはどうか、高齢者の施策の中で公民館を軸にということですか。これはもしかしたら、高齢者だけではないかも知れませんね。

委員 そうです。

部会長 地域のいろいろなニーズに公民館というものをうまく活用できないか。その中にはそれぞれが持っている長所を發揮できる場にしてはどうか、というお話でした。

これでまとまったと思いますので、高齢者対策のところ意見として提言ができればと思います。この辺が福祉でいうとコアなところだと思いますが、環境についてはどうですか。安全と分かれていますので、環境の中でお願いします。先ほどの意見の続きをどうぞ。

委員 9番と10番についてです。私の家の向かいに100歳近いご夫婦がいらっしゃいます。先日、市長が来られました。そのご夫婦を見ていると、絶えずどこかに出かけています。お嫁さんもとても優しい方で、次世代の方も一緒に住むようになって大勢の中で暮らしていらっしゃいます。外に出て楽しめる場が中心部だけでなく田舎でも欲しいと思います。子どもたちも来て遊ぶことができ、畑など一生懸命していたがでにくくなった高齢者が、川を眺めようか、歩いてみようかと家にこもらないで息抜きができる憩える場を整備する必要があるのではないかと思います。都市部では公園しかありませんが、農村部では今では子どもたちが遊ぶ野原が無くなって道路でしか遊べなくなりました。河川敷も入れません。田舎の子どもたちがのびのびと遊ぶことができる場所が必要だと思います。Uターンで帰って来てくれた家族が2家族います。もう少し広い場で、広い河川敷で遊ぶことができるような所を作って頂けると子どもたちは喜ぶし、高齢者の方にとっても良いのではないかと思います。

部会長 環境対策とは、ごみのこともありますが、赤穂は自然の環境に恵まれていると思います。海、山、川があり、ショッピングセンターや病院もあり、とても住みやすいところだと思います。人口減少に対応するために、このような景観があり自然もあり暮らしやすいということを、今の例等いくつか挙げて、赤穂は自然もあって、とても子育てもしやすいというようなことも総合計画に入れて頂くと、例えば人材がちゃんと能力があるのに表に出せていないのと同じように、赤穂には良い自然があり良い活動もしていますが、それを十分に出せていないところもあるので、そのようなところを見える化する

る、あるいは整えるところは整えるということで、先ほど環境対策についてご提案を頂いたかと思います。他にはいかがですか。

委員 すみませんが、もう一つよろしいですか。20年が経ち沖田遺跡がとても良くなりました。木々が揺れて風の音を聞くことができるし、春夏秋冬の花が咲く場になりました。先ほど地図を配らせて頂きましたが、南部の子たちにも来て頂きたいし、自転車を置いて頂き他市からも有年の遺跡めぐりを頂くことができます。私は県下では一番の遺跡だと思います。沖田遺跡で遊ぼうという会をしています。そこで子ども達は生き生きと遊びました。

部会長 そのような活動ですね。次年度の活動を必ず入れて下さいと言う会ではないので、環境対策としてどんなことを提言していけば良いか、ということで赤穂市には今2つの話を頂きましたが、赤穂の自然を活かしたところをもっとアピールしてはどうか、また整えるということをしてはどうかという提言をまとめさせて頂いて大丈夫ですか。

委員 はい。

部会長 では、環境について意見があればお願いします。

委員 13番の3R（減らす、繰り返し使う、再資源化する）による粗大ごみの減量化についてです。粗大ごみの日に、まだ使える家具や電化製品が無造作に捨てているのをよく目にします。そのようなものを回収して少し手を加え、使える状態にして欲しい人に提供するサービスを、市が場所を提供し希望のある業者、例えば民間の資金を使って事業推進し、公共サービスを提供するという事です。

部会長 今のご意見に対していかがですか。

委員 徳島かどこかで、そのようなことをまちぐるみでしているようです。まち自体がとても盛り上がり、これを目当てに人が来ます。欲しい人が来るのでにぎわいにはなると思うので、良いなと思います。

部会長 粗大ごみの減量化ということで、リサイクルという観点、地球にやさしいという観点です。他はよろしいですか。

委員 西有年に建設される予定の産廃の施設ですが、現在はいろいろと運動をしています。100年に一度や50年に一度という雨量の雨が降ります。万が一あふれたり、破損されると千種川に流れ込むと言われています。赤穂市民は千種川の水を飲んでいますが、多くの生物も生息しています。他市にも水を送っています。産廃については反対して頂いて、今7,000あたりの反対の署名を届けています。千種川が汚染され、何十年後かになるといろいろと障害が出てくると思います。環境の保全、美化に取り組んで頂きたいと思っています。

部会長 10番の美しい千種川をいつまでもについての意見でした。これ自体は、

非常に大きなテーマだと思いますが、何かご意見はありませんか。基本、この通りでしょうか。

委員 ごみの減量化、分別化、最終的にごみ袋の有料化です。一度赤穂市でもしかけたようで何かに引っかかって実行されませんでした。水道料金の値上げというとおかしいですが、赤穂市の水道は本当においしくて安く全国的にも誇れるものです。その割に、ふんだんに使いすぎているのではないかと思います。少しでも痛みを受けて、その分お金が残りますが当然これからの水道事業のお金は多額なのでそういったところに使って頂きたいです。ごみも焼却施設については、備前市では壊れてしまって他に持って行っているそうです。当然お金も掛かり、場所も必要です。極端な話になると粗大ごみを有料化すると勝手に出すことができないので、回収場所を作ればそこに持って行きます。飴と鞭ではないですが、痛みを伴わなければ、なかなか将来の自分たちのまちを守っていくことはできないのではないのでしょうか。そのためにも有料化することが一番良いのではないかと思います。それが環境を守ることに繋がると思います。

部会長 今は環境問題、この後は安全、コミュニティなどあり、個別の意見はあると思いますが、今検討しなければならないことは、次期計画として必須のこと、考え方です。入れる場合は根拠や理由です。絞っていかなければ、動機はたくさんありますので拡散してしまい、どれにするという話になってしまいますので、そのような観点で絞ると環境についてこれというものがありますか。

委員 私は、10番についてです。西有年に計画されている産業廃棄物の最終処分場計画は絶対に反対しなければならないと思います。いつ山崎断層の地震が起きるか分からないし、いつ水害が起こるかも分かりません。多くの土地を買占められ産廃場になるのではないかと懸念されます。ダイオキシンや放射能や汚染物質が排出されない保障はまったく無いと思います。千種川の水は、お米を作る水や、沸騰しなくてもそのまま飲める水です。許可要件に該当しても反対をお願いしたいと思います。

部会長 多様な意見があると思います。自分の意見と皆の意見が同じわけではありません。いろいろな立場がありいろいろな考え方、価値観があります。この会の目的は、次期の総合計画の骨子となる考え方をまとめることです。産業廃棄物の最終処分場については非常に大きな問題です。反対する理由としては環境が破壊されるということで反対という意見がありました。反対ではないという意見の方はいらっしゃいますか。意見はいろいろあって当然良くて、いろいろ立場があると思いますので、どちらの理由がなるほどと思うかだと思います。残っているもので、産廃についてが一番大きな問題だと思います。

ます。

委員 産業廃棄物については、何らかの対応をしなければならないと思います。私自身も、どこまでか分かっていないところもありますが、プラスになる要素がないと思います。産業廃棄物最終処分場を作って赤穂市が良くなったということには決してならないと思います。マイナスの要素だけだと思います。天和の恋が浜の北と南に計画されています。赤穂市は牡蠣や塩等の海産物を目玉としている中で、海岸べりにできると風評被害になるという話もあるので、作らない方が良いのでないかと思います。次の10年の中にこれをどうするのかについては入れなければならないと思います。

部会長 今のお話は、長い目で見て環境は守っていかなければならないでしょうということが基本的な考えだと思います。当面の利益でお金が下りるということもあると思いますが、長期的に見てどうなのか。今は反対の意見が多いです。

委員 これはとてもよく言われていますが、情報がよく分かりません。反対はしていますよね。先ほどお話にあった土地を買い占めている等という情報は、行政から情報開示をできれば、反対するにしても環境を守るということで統一化ができると思います。反対と言っても、何がどう反対なのか、何ををもって反対なのかは私はよく分かりません。若い人は産業廃棄物の何が悪いのかが分からないと思います。若い人たちもこの問題や環境に興味を持って頂くことが10年先、20年先に大事だと思います。そういう意味では情報開示が大事なのではないかと思います。

部会長 ありがとうございます。両部会共通の44番に対話と公共心が笑顔と活力を生み出すとあり、私が提案しました。地方自治という観点をもっと強く入れた方が良かったと思います。産業廃棄物最終処分場についても委員の意見として自然を守るために基本反対だと提言をすると同時に、このような大事なことは、もっと対話の場というか一定の情報を提示して、いくつかの場でみんなで対話ができるようなことを行政として設けるべきではないか。そのようなことを計画に入れてはどうかと思いました。対話が無い中で決めるのではなくて、大事なことにってはなるべく多く場を設けるという提示の仕方があるのではないのでしょうか。

委員 少しお聞きしたいのですが、赤穂市に住んでいて産廃についてのチラシ等を受け取ったことは無いですか。

委員 見たことはあります。若い人は、よく分からないので見ても読まないと思います。土地を買い占めている等、市民で取組まなければならない問題であり、その取組み方に問題があるのでバラバラなのではないかと思います。チラシは見ますが、産業廃棄物がどこから来て、どんな産業廃棄物で、水害が

起きたらどうなって、千種川がどうなるかということは私は分からないです。そのようなことをきちんと情報化をすれば、それではだめだとなるのではないかと思います。

委員 有年の住民はとても身近な問題として考えています。

委員 恐らくそうだと思いますが、他に住んでいる人は身近に感じていないと思います。赤穂市の問題であっても、西有年の問題だと。そこが間違っていて、西有年の人は反対していますが、他の人は西有年のことだと考えているかも知れません。

委員 家島の人がたくさん署名をしてくれました。その理由は、千種川から水を取っているからです。

委員 見ました。

委員 生活に関わる水に影響があるので大事な問題だということです。一般の廃棄物とは違い、予定されているものは業者が出したごみである産業廃棄物です。それを高額で買い取り、西有年の土地を買い占め、穴を掘って下にビニールを敷くので外には漏れないという話です。しかし、先ゆきが分かりません。

委員 そのような話を行政がもっと環境問題に関して若い人や、お母さんに理解をして頂くのが大事なのではないかと思います。

委員 しかし、行政としては実際には難しいのではないかと思います。行政が反対できるのならば、すでに反対しています。

委員 反対するのではなく、情報を提示することが大事なのかなど。

委員 市民の会といい、自治会からお金を取っています。それで広報をしています。それでもまだ足りないと言われると努力が足りないのかと思いますが、広報については少しずつお金まで取って、皆さんにいろいろな形のを配布しているのですが。

委員 私の意見は、この問題に限りません。すべての問題に関して情報提供は大事ではないかという意見です。

部会長 この会は個別の案件について議論する会ではありません。産業廃棄物最終処分場に関しては基本的に反対であるけれど、そのようなことをもっと話し合うことができる場をもっと設けてはどうかとまとめたいと思います。最低限として福祉・環境・安心部会はクリアしたいと思います。

共通のものはどれかという問いかけをして終わりたいと思います。安全安心対策についてご意見があればお願いします。

委員 私は17番の天候に左右されることなく緊急時に情報を的確に周知するシステムの開発を提案しました。災害時に大雨が降ったり風が吹いたりしたときに、防災行政無線の音が聞こえません。何度も避難勧告していると思い

ますが、私は携帯電話を見れば分かりますが、携帯がなくてアナウンスだけの人は聞き取れません。素人なりに何が問題かを考えました。おそらく音の指向性に問題があるのではないかと思います。単一指向性という一直線で一方向にしか音が飛ばないスピーカーで、例えば30度ずつや60度ずつ角度を変えて同じ内容をアナウンスすれば少なくとも直線の沿線上にいる人は聞き取ることができるのではないかと思います、このような提案をしてみました。実際には、音の指向性など今のシステムがどうなっているか知らないのですが、リアルタイムで本当に必要な情報を市が発信しても、それが聞き取れなければ意味がないと思います、何とかならないかなという提案です。

委員 私は塩屋に住んでいます。小学校の屋上に災害用の無線がついていますが、窓のサッシを締め切っているということもあるかも知れませんが、聞こえにくいです。車で広報して頂いたことは聞こえます。小学校の防災無線は聞こえにくいと言う人が多いです。

部会長 情報が届かなければ意味がないですよ。情報が届いても動かなければその人の問題にもなるし、それは別の課題ですが、いずれにせよかなり顕在化しているものとしては、行政が発信しているのに届くようなものにして欲しいというようなご提案でした。ありがとうございます。安心安全対策について他にご意見はいかがですか。

委員 追加です。Jアラートの点検を非常に天気の良い日にされていました。それはもちろん聞こえたのですが、天気の良い日にJアラートのテストをしてもあまり意味がないのではないかと思います。

部会長 合わせて安全安心対策のところで、有効性のあるものにして頂きたいという例として、アナウンスをしても届かないこと、あるいはJアラートの点検は雨のとき等にしてはどうでしょうかという具体例をつけてということですね。ありがとうございます。両部会共通については、一つ一つ見ていきませんが、この中でこのところはこの部会としても意見をまとめておきたいということがありましたら、どの項目でも結構ですのご意見をください。

委員 43番の市の印刷物をもっと読みやすく、わかりやすくするという提案についてです。今日頂きました資料は比較的分かりやすくできていると思いました。このように読み手のことを考えて表現を易しくするとか、文字を大きくするとか、読みやすいようにする配慮が欲しいと思います。

部会長 次回の総合計画の骨子となる場所ですので、かなり軸になる場所をお願いします。

委員 45番の人口減少社会に対応した施策の構築についてを提案させて頂きました。

2の縮小のまちづくりの推進の提案理由は、人口減少を見据えた施策の推

進ということで、水道、下水道、公共施設等の人口減に適応した見直しが必要ではないかということです。よく言われているコンパクト化やネットワーク化の推進が必要ではないかと思ったからです。

3の定住人口の維持、増加策の推進は必要だと思います。住みやすいまちや子育てしやすいまちといろいろな課題があります。提案の理由で書きましたが、20歳代の転出者が多いです。転出者の減少を図る必要があるのですが、市内でも就業先が必要ですが、なかなか企業誘致が難しく、就業先の確保は困難です。定住人口の維持、増加ということになれば、やはり住みやすいまち、子育てしやすいまちが必要ではないでしょうか。就職先が市外であっても住まいは市内。そのためには通勤範囲の拡大や、交通網の充実が必要になると思います。

部会長 今後この観点に関しては、当然総合計画の一つの大きな観点になりますので、ここのご提案を一つの意見に対して検討して頂けたらと思います。人口減少社会に対応した施策でご意見があればお願いします。

委員 42番のオープンシティについて提案させて頂きました。内容は、PR不足だということです。赤穂市は子育て支援は十分すぎるし、水道も安いし、良い施策が多くある中で、そういうPRができていないのではないかと思います。学校はオープンスクール等で授業を見て頂いたり、直接体験して頂いたり、来てよというPRをしています。オープンシティというネーミングはおかしいかも知れませんが、そのようなことを何かできないかなと思いました。フェイストゥフェイスが難しい場合はホームページを活用してワンストップではないですが、赤穂市の魅力はここですと示すことができれば良いと思います。別のところで赤穂市の制度を聞かれたときに、例えば姫路市のメンバーが、赤穂市にはそんな制度があるのですか、良いですね、姫路市にはありませんということも多く聞いています。姫路市はお城があり、駅前が華やかですので住んでみようかと思いますが、赤穂市も決して負けてはいないと思います。もっとPRが必要ではないかと思い提案させて頂きました。

部会長 あっという間の二時間で非常にいろいろな意見が出ました。意見が出なければ委員会を設ける意味がありませんが、時間の関係もありますので以上で一旦協議は終わりにしたいと思います。

次回は、今日の協議を踏まえ、部会としての意見の集約を図ることになります。その場でも今日言えなかったことや、今日の話聞いて追加の意見がありましたら次回も協議する場がありますので、皆さまから忌憚のないご意見を伺えればと思います。

(3) その他

部会長 それでは次に、次第の3、その他について、事務局からお願いします。

事務局 はい。次回の部会の開催にあたりましては、11月中旬を予定いたしております。部会長と日程調整を行いまして、皆さまにお知らせさせていただきたいと思います。

 また、先ほど部会長から発言がございましたように、次回は部会としての意見集約に入りますので、委員の皆さんの方で、この場で言い足りなかった点や補足事項、その他ご意見がございましたら、事務局へご連絡ください。よろしく願いいたします。

部会長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問等ございませんか。

委員 (質問等なし)

部会長 ないようでしたら、本日の会議はこれで終了いたします。

 お疲れ様でした。

(4) 閉会